

卯 月 早くも巡り来たつた春の日和。今迄

の蓄はへられて居た新しい力は萌え出でる。

其れは必ずしも、草木の若芽に限らない。

すべてが新しい建設と活動への發足であら

ねばならぬ。而も、其の發展の契機として

の吾人の精神をば、三省四省すべきをも忘れられ無い。

1939年

4月の天象

北天から西へ “冬來りなば春遠からじ” 秋を語るアンドロメダも、全く地平線下に去つて、カシオペア、ペルセウス、牡牛、オリオン、大犬等、次ぎ次ぎと夕焼に消へて行く。“春遠からじ、春遠からじ” 其の春を呼ぶ間もあらで、“冬は去りぬ、今ぞ春は來りぬ” との無言の聲は、自からを慰さめるよりは、むしろ感傷に響く。其れが何故か、單に最も華かな、然も凛として嚴冬を飾つた是等の諸星座にリンクされて居るのか？ 自分には解らない。たゞ思ひ出るがまゝに、もう一度、早目の宵空を探つて見やう。

南に廻つて天頂から北へ 是れも既に稍傾いた小犬と、例の氣味悪い海蛇、アルゴの尾端等が、暗いバツクに浮んで居る。然し中天に向ふと、流石に双子、駁車、少しは西に傾き乍らも、未だ高い。丁度眞上には、獅子、小獅子、山猫の猫科と、北目にある大熊、小熊が、猛獸ブロックを形成して居る。北斗の天針は最良の位置に來た。小北斗の指針も眞東を指して居る。其の間にあつて、蟹だの獵犬だの鳥だのと、小サイ連中が一役買つて、其上、是亦謎の存在“龍”すらも、東北天に控へて居るのだから、いよいよ人間は歩が悪い。

東 天 でも更に東に目を移すと、もう美しい北冠がキラキラと可愛い王冠を輝かせて來た。其の右上に巨大なアクトウルスが“いでや牧夫、此處に春の天地を開拓せん” とばかり、異彩を放つのが特に目立つて來る。更に南目のスピカ——アクトウルスの橙色に見較べて、少しづつましやかな青白い瞬きは、乙女の手もつ麥^たの穂先にまで、隠し得ない青春の血潮が、其の躍動を傳へて居るのでは無いだらうか。

太陽 月始めには“魚”座、月末には“羊”座の中央へ移る。簡単に表記すれば

日付	赤緯	赤緯	晝間	夜間	夕刻薄明終焉時刻
	時 分 秒		時間 分	時間 分	時 分
1	0 38 9	+ 4° 7'	12 32	11 28	19 52
6	0 56 22	6 2	12 42	11 18	19 57
11	1 14 40	7 54	12 53	11 7	20 02
16	1 33 5	9 43	13 04	10 56	20 08
21	1 51 39	11 29	13 14	10 46	20 13
26	2 10 24	13 9	13 24	10 36	20 19
30	2 25 32	14 26	13 32	10 28	20 24

赤緯はグングン昇つて来る。月始めには、其れでも寒い事もあつて、稀には京都や東京でも、氷點下に降る事もあるが、月末の日中には、街を歩む首筋に汗ばむ事すらもある。一年中で最も氣候の激變する月である。

月 月齡 11.4 の月が、“獅子”座に始まり、一周して“乙女”座に終る。其の間の諸相を略示すれば（月齡、視直徑は日本中央標準時 21^h の値）

日付	月齡	視直徑	時刻	星座	記事
1	11.4	32'47"	21 ^h	獅 子	最 近
4	14.4	32 26	13	乙 女	満 月
12	21.4	29 48	1	射 手	下 弦
13	23.4	29 32	18	山羊と水瓶の境界	最 遠
20	0.8	30 37	2	魚と羊の境界	新 月
27	7.8	32 13	3	蟹	上 弦
28	8.8	32 20	19	獅 子	最 近

である。闇夜の無い日、及び闇夜は夫々、満月、新月の前後三日である。4月の月は、あまり季節の話題にならないが、新しい二日月を見るのには4月21日夕空は好条件の方であらう。

木 星 月始め、“魚座”の中部にあつて、3日には内合する。其後も逆行をつづけて、15日停留、以後順行するが、曉天に在つて益々太陽から離れて行く。しかしこの頃の曉天の離隔は見難い。

金 星 曉天にあつて、“水瓶”座の中部から、“魚”座の中部へと、猛スピード太陽を追つ駆けて居る。視直徑は 15."⁴4~12."³3、光度は -3.6~-3.4へと減少の一路である。然し、何分明るい星だから、未だ朝には、人目を引く。

火 星 日下の楽しみは火星だけである。未だ曉天にあつて、“射手”座の南斗六星の上邊を順行中であるが、光度は +0.4~-0.2へと、いよいよマイナス

綫になり、視直径も $8''.6 \sim 11''.2$ と増加して來た。春ともなれば追々シン・イ
ングも好轉するから、特志の觀測家は、もうこの頃から觀測を開始すべきで
ある。今、火星の世界は、地球で云へば秋分の一ヶ月許り前、即ち、北半球
では漸く秋に入りかけ、南半球では春に一足入つた頃である。

木星 “水瓶”と“魚”座の境界線上に居る。曉天の星だが觀望は不能。

土星 “魚”座に居て、11日には合となる。これも全く觀望不能。

天王星 “牡羊”座に在つて夕空の星とは云ひ度いが、是亦太陽に近くて駄目。

海王星 先月來引つづいて“獅子”座に居る。前號の圖に依つて見れば、小望
遠鏡で姿は見へる。

ユリウス日 4月1日21時が 2429355.0 に當る。

黃道光 西天の黃道光は漸く消えかゝる。

彗星 4月に回歸して近日點を通過するものは無いが、無に親しみの深いボ
ン・ウインネッケ彗星が、多分發見されるだらう。或は3月に既に發見され
るかも知れない。未だアマチュアの器械には見當らないかも知れないが、月
始めには牧夫座の γ 星の東3度位から、大體北上して15日頃には β 星の西
 1° 位の所を通過して、更に北上する。月末には少し速度は鈍つて來る。5月
に入れば面白からう。いづれ次號に經路を圖示する。

日食 4月19日金環食がある。中心はアリユーション列島中部、カナダ、アラ
スカ國境、北極と云つた人煙稀な地方ばかりであつて、日本からでは、部分
食も見られないから、詳しい事は省略する。

太陽の爆發説 !!

我が地球や、金星、土星、火星のやうに、きれいな遊星の配列が如何にして太陽のまは
りに出來たか？ 此の問題を解くため、昔から、カントやラプラースの星雲説、チェンバ
リン・モルトンの微遊星説、近くはジョンスの説等が提唱され、結局、今では二つの恒
星の接近により潮汐説などが廣く行はれてゐるのであるが、最近(昨年1938年末)アメリカ
物理學會がワシントン市で開かれた時、海軍研究所の Ross Gunn さいふ人が一新説を提
唱した。それは、太陽が幾十億年前に“新星”(Nova)のやうな現象を起し、急に爆發し
て、其の表面からガス物質を噴出し、それが今日の各遊星になつたのだらうさいふ説であ
る。